

---

sakura ~**想**い出~

桜吹 類

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

s a k u r a      〈思い出〉

### 【Nコード】

N 1 4 7 3 Q

### 【作者名】

桜吹 類

### 【あらすじ】

貴方は桜が好きだった。どんなに綺麗な花よりも、桜が好きだった。  
白い雪の降る冬のある日、私と彼は約束した。「春になったら、また桜を見に行こう」と。そして春。約束通り、私達は桜を見に行きた。。。

桜は貴方が好きだった花。

どんなに鮮やかで綺麗な花よりも、貴方は桜が好きだった。

「あと、どのくらいで春になるんだろうか・・・」

冬のあの日、彼は灰色の空から降りゆく無数の白い雪を見上げながら言った。

彼は、医者に決して治ることはないだろうと言われた感染性の重い病を抱えていた。

「気が早いです。春はまだ、ひと月以上先ですよ」

「そうか。当たり前だよ・・・」

私の答えに、彼は残念そうな表情を浮かべながらも微笑んだ。彼が吐いた白い息が空へ消えていく。

何故彼がそう言ったのか、私には当然のように分かっていた。きつと彼は桜が見たくなっただろう、と。

庭にいる彼の隣に私が行くと、彼は言った。

「雪を見ると、どうしても桜が頭の中に浮かぶんだ。・・・それは、俺だけなんだろうかな」

「いえ・・・そんなことを仰るから、私までそう思えてきました」  
ずっと庭にいた彼の大きくて冷たい手が、私の手をそつと優しく包んだ。その手が、私にはある意味温かく思えた。

そして彼は優しく微笑んで言った。

「春になったら、また二人で桜を見に行こう」

それから春になった。

彼の言葉通り、私達は桜を見に行くことになった。

「桜も他の花たちも儂いものだけれど、それでも凜と咲くところ

が好きなんだ。桜は・・・まるで人の生涯のように、咲いては散り、再び咲いていく。俺は桜に励まされ続けてきたんだ・・・」

一年ぶりの桜を見上げ、彼は言った。

彼のその目は、切なげにずっと桜を見つめていた。

「来年も・・・一緒に見れますかね？」

冗談で私は彼に言ってみた。

桜を見るのを止め、彼は私を見た。

何故だか彼の表情は、悲しさを押し殺してるように見えた。

「そうだな・・・。そうだと、良いな」

そう言った彼の手が、私の肩に置かれた。彼の顔が近づく。

私は目を閉じ、そして唇に温かさを感じた。

長くも短くも感じたその時間は経ち、温かさが離れ、私はそっと

目を開いた。

「どれだけ一緒にいることが出来るか分からないが・・・最期ま

で傍にいてくれるか」

「もちろんです」

彼の言葉に、私は頷いた。

愛しい貴方となら・・・貴方が望むなら、どこまでも傍にいる。

たとえこの先が短くても、私は・・・。

「う・・・あ」

微笑んでいた彼の表情が、突然崩れた。

「!？」

私が目の前で起こっていることが理解できず呆然としている間に、

彼の体がゆっくりと倒れていった。

本当に・・・突然だった。

・・・そしてその時、彼は亡き者となった。

彼が好きな桜の木の下で、命の終わりを迎えた。

私は倒れた彼の体に寄り添って声を上げて泣いた。ただただ泣き

崩れた。

満開だった桜の一片が、目を閉じた彼の頬にひらりと舞い落ちた。

視界がくもる中で、私は彼を見た。そして思った。

貴方はまるで・・・私の好きな、夢い桜のような人。

(後書き)

切ないような悲しいような感じで作ってみました。。。  
桜って季節外れですけど、気にしないでください 汗。  
あまり慣れていないので、コメントなどいただけると嬉しいです。  
ご閲覧ありがとうございました。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1473q/>

---

sakura ~ 思い出 ~

2011年1月16日01時40分発行